

# 平成 26 年度 村上市道徳部 活動報告

部長 貝沼 史弘（さんぼく北小）

## 1 研究主題

道徳的実践力を高める「道徳の時間」の工夫

## 2 研究の概要

- 5月 9日 第1回道徳部会 1年間の事業計画立案
- 8月25日 第2回道徳部会 指導案検討
- 10月 9日 第3回道徳部会 道徳研修会 岩船小学校山田潤教諭による授業公開
- 12月 3日 道徳授業研究会（さんぼく北小学校）への参加・協力

## 3 研究の実際（岩船小学校 山田潤教諭の4学年授業公開より）

### (1) 展開の概要

- ① 主題名 あきらめないで努力する（内容項目 中学年1ー（2）勤勉・努力、忍耐）
- ② 資料名 「どりよくでつかんだ二つのゆめ」
- ③ ねらい 辛いことがあっても、目標に向かって粘り強く努力しようとする気持ちをもつことができる。

学習活動・主な発問	教師の支援・留意点
1 河合純一さんの写真を見て、気が付いたことを発表する。	・テレビ画面に資料を提示する。 ・児童の発言から学習課題を設定する。
2 資料を聞き、周りから「かわいそう」と言われた河合さんの心情を考える。	・自分が同じ立場ならどのような気持ちになるか考えさせる。
3 河合さんは、辛い練習や勉強を投げ出そうと思わなかったのかを考える。	・三つから選ばせ、理由を発表させる。
4 河合さんは、どうして二つの夢を叶えることができたのかを考える。	・班ごとになり、意見を交流させる。 ・発表後、河合さんから聞いたことを伝える。
5 自分の夢を叶えるために、河合さんの生き方から学べることを手紙に書く。	・実際に河合さんに手紙を送ることを伝える。記入後、河合さんからのメッセージを紹介する。
6 教師の説話を聞く。	

### (2) 授業の実際

導入で、河合純一さんの写真を提示し、授業者が「写真を見て、気が付いたことは何ですか。」と問うと、児童から「顔が黒いから山登りをしている人」「杖をついているから目の不自由な人かな」



と様々な意見が出された。その後、授業者から「パラリンピックの水泳自由形で多くのメダルを獲得したこと」「大学卒業後、母校に赴任し、中学校教員になることができたこと」が紹介されると、児童から「すごい」という声が聞かれた。

展開前段では、周りから「かわいそう」と言われた河合さんの心情を問うと「どうして障害をもって生まれたんだろう。」「どうして僕だけがそんなことを言われるのか。」など多くの共感する意見が聞かれた。

また、本時の主発問である「河合さんは、どうして二つの夢を叶えることができたのか」では、班ごとになり意見を活発に交流させていた。「辛いことがあってもあきらめないこと」「夢や目標をもつことが大切なこと」に気付くことができていた。その後、河合さん本人のメッセージを授業者が紹介すると、「河合さんでも練習をやめたいと思ったことがあるんだ。」「努力は自分を裏切らないと思って練習したのか。」という呟きが聞かれた。

展開後段では、児童に夢（目標）があるかを問い、その夢（目標）に近づくために河合さんの生き方から学んだことを手紙に書かせた。どの子も自分の夢を叶えるために頑張ることを書くことができた。

わたしは河合さんのように夢があります。ファッションデザイナーです。わたしは道徳の勉強で河合さんのつらさや苦しみが分かりました。わたしも河合さんのように「生きる」ということをわすれないで夢に向かってがんばりたいです。

わたしは河合さんのようにスイミングを習っています。今は二十五級なのですが、とちゅうでつらくてめんどうくさい、もうやめたいと思ったことが何度もあります。でも、河合さんのお話を聞いてとちゅうでかんたんにあきらめちゃだめだと思いました。次のテストでは、二十三級になれるようにがんばるのでおうえんしてください。ぜったい二十三級になります。

【児童の手紙より】

## 4 成果と課題

### (1) 成果

- 河合純一さん本人にインタビューしたことを提示したり、メッセージを書いてもらったりしたことで、より説得力を持つ資料にすることができた。また、授業後段で書かせた手紙を実際に河合さんに送るように伝えたことで、相手意識をもって書かせることができた。
- テレビ画面に写真や資料を効果的に提示することで、より資料に共感させることができた。

### (2) 課題

- 活動3で辛い勉強や練習を投げ出そうと思わなかったのかという発問に、投げ出そうと思わないと考えた子の多くが理由として「夢をもっていたから」「あきらめたら夢が叶わないから」と答えていた。そのため、主発問の活動4でも同じ理由が出されていた。予想される児童の反応を基にした発問の流れが必要であった。
- 資料が低学年用であったため、理解しやすい内容であった半面、葛藤させるものがなかった。より児童の実態に応じた資料を提示させることで、より高い道徳的価値に気付かせることができる。